

# JIS

## 鋤山用語

JIS M 0102 : 2000

(2005 確認)

平成 12 年 3 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

## まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。これによってJIS M 0102 : 1978は改正され、この規格に置き換えられる。

今回の改正は、従来単位を規格値として扱っていたものを、国際単位系を規格値とし、また、JIS Z 8301(規格票の様式)に基づいた様式へ整合させたものである。

なお、この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。通商産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

---

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和43. 4. 1 改正：平成12. 3. 20

官 報 公 示：平成12. 3. 21

原案作成協力者：社団法人 日本鋳業会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 非鉄金属部会 (部会長 神尾 彰彦)

日本工業標準調査会 資源エネルギー部会 (部会長 今泉 常正) (昭和53年7月1日改正のとき)

審議専門委員会：鋁山用語専門委員会 (委員長 伊木 正二) (昭和43年4月1日制定のとき)

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部標準業務課 (☎100-8921 東京都千代田区霞が関1丁目3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 鉱山用語

M 0102 : 2000

## Glossary of terms used in mining

1. 適用範囲 この規格は、鉱山関係で用いる主な用語と、その読み方及び意味について規定する。  
なお、参考のために対応英語及び慣用語を示す。
2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の一部を構成する。これらの引用規格はその最新版を適用する。  
JIS M 1001 鉱量計算基準  
JIS M 8801 石炭類一試験方法  
JIS Z 8801 試験用ふるい
3. 分類 鉱山用語を、次の6部門に分類する。
- 探査
  - 採鉱・採炭
  - 運搬
  - 保安
  - 選鉱・選炭
  - 石油・天然ガス
4. 鉱山用語 主な用語について、次のように定める。  
備考 二つ以上の用語を並べた場合は、その順位に従って優先使用する。  
なお、用語欄の( )内の細字は、参考として示したものである。

## a) 探査

## 1) 地質一般

番号	用語	読み方	意味	参考	
				対応英語	慣用語
1101	地層	ちそう	たい積岩の岩体。多くは層状をなす。	stratum	
1102	葉理	ようり	単層内部の構造で、粒子などの配列状態によって生じた面状の組織。	lamination	
1103	層理面	そうりめん	整合に重なり合っている単層と単層との接触面。ただし、それに平行な地層内の面を層理面として扱うことも多い。	bedding plane	
1104	(地層の) 走向	(ちそうの) そうこう	地層の層理面と水平線との交線の方向。 なお、この語は面状をなすすべての構造要素に対しても用いられる。	strike (of stratum)	